愛知工業大学研究報告
第19号A　昭和59年

大学生の職業観の構造について（序報）

——工科系学生を対象とした予備的検討——

柴　山　茂　夫・林　　文　俊

A Preparatory Study on Engineering College Students' Vocational Views

Shigeo SHIBAYAMA and Fumitoshi HAYASHI

The purpose of this study was to find out certain kinds of dimensions through which vocational views of engineering college students might adequately be interpreted.

416 subjects were asked to answer a questionnaire on their motives for entering the world of work, occupations which they think they themselves can enter, and criteria for their vocational choices as well as decisions.

As the results of the factor analysis, we found 11 dimensions. And it was suggested that these dimensions were useful for the investigation of vocational views of engineering college students.

I．問題と目的

人は，職業というものに対して，種々の見方や考え方をもっている。こうした職業に対して個々人が抱いている信念の体系は，職業観ないし職業的態度と呼ばれる。人が職業を選択するに際して，また就職後の職業的適応に際しても，このような職業観が重要な役割を果すものと考えられている。

従来，人がもつ職業観を調べるために，いくつかの測定法が提唱されている。たとえば，Super, D. E.[1]の職業価値観調査目録（Work Values Inventory）やRosenberg, M.[2]の職業的価値尺度（Occupational Value Scale）などは，広く知られている。また，わが国では，増田幸一・広井　甫[3]によって開発された職業観診断テストが代表的なものとして挙げられる。これは，150項目からなるインベントリー形式の標準テストであり，次の5つの尺度から個々人のもつ職業観が診断される。

①経済性　生活の安定・保障，経済生活の向上などを重視する要因。

②社会的価値　社会的地位・名声，ならびに集団所属や人間関係からもたらされる満足などを重視する要因。

③自己実現　職業を通しての個性・才能の発揮，ならびに独立性・自立性の満足などを重視する要因。

④義務感　人間の義務としての職業，社会への貢献などを重視する要因。

⑤帰属性　事業体との一体感，定着性などを重視する要因。

ところで，職業的自立を目前にした大学生は，当然，適正な職業観を確立していなければならない。しかし，一般に彼らの職業的認識や職業的体験は必ずしも豊富とはいえず，ともすれば職業的自己同一性が拡散し，モラトリアムの境遇に逃避しようとする傾向も見うけられる。こうした状況にあって，彼らに対する進路選択への援助が，学生相談の主要な課題の一つともなっている。

大学生の職業観に関した実態調査は，これまで数多くなされているが，技術職志向の学生の職業指導に直接役立つような調査資料は，きわめて限られている。そこで，われわれは取り敢えず本学の学生を対象として，彼らのもつ職業観の構造について予備的検討を加えることにした。なお，本稿は，現代学生の価値認識に関する因子構造的研究（代表者　名古屋工業大学教授市川典義）の第一段階として収集された資料の一部を，われわれの目的意識にそって取りまとめたものである。

II．方　法

本学に在籍する三年生のうち416名を対象にして，質問紙調査を実施した。質問紙は，3つの部分から構成されており，Part 1では主として職業生活に対する考え方に関した37項目（表1参照）に対する賛否を，「非常にそう思う」，「かなり思う」，「どちらともいえない」，「あまりそうは思わない」，「決してそうは思わない」，の5件法で尋ねた。また，Part 2では希望する職業・職場の条件に

表1 職業生活に対する考え方

		平均と標準偏差 M	SD	因子負荷行列 Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
1	たとえ職場に不満があっても、いったん就職したら転職すべきではない。	2.7	(1.2)	.31	.00	.04
2	一生懸命に働いて金持になることが、人生の幸福への近道である。	2.5	(1.2)	.08	.54	-.07
3	女性は出産後も可能な限り職業を続けるべきである。	2.5	(1.0)			
4	計画的な人生を送るよりも、その日その日をのんきに暮したい。	2.3*	(1.1)	-.37	-.02	.04
5	生活ができるなら、人は定職を持たなくてもよい。	2.1*	(1.1)	-.37	.07	.05
6	今の社会では、個人の才能や能力よりもむしろ学歴によって、その人の将来が決まる。	3.2	(1.2)	-.08	.16	.17
7	出世や昇進のために毎日あくせく暮すのは、愚かなことである。	3.0	(1.1)	-.27	-.30	.30
8	上役や同僚とのつき合いよりも、余暇は自分のために使った方がよい。	3.4	(1.1)	-.24	-.02	.20
9	職業上の成功は、本人の才能よりも運に左右されることの方が多い。	2.9	(1.0)	-.19	.12	.25
10	日本における終身雇用制は、外国も見習うべき、すばらしい制度である。	3.1	(1.0)	.29	.05	.19
11	金や名誉のことはあまり考えずに、自分の趣味に合った暮し方をしたい。	3.7*	(1.0)	-.15	-.35	.15
12	「職業に貴センなし」というのはタテマエで、やはり職業にも上下の差がある。	3.8*	(1.0)	-.04	.29	.25
13	女性は、就職するより家庭に入った方がよい。	3.4	(1.2)			
14	自分にとって就職とは、第1に、経済的基盤を築いて生活を安定させることである。	4.2*	(0.9)	.20	.26	.34
15	現代においては、世の中のことは結局すべてお金で動いている。	3.7*	(1.1)	-.05	.45	.33
16	職業は生活の手段にすぎず、仕事以外に人生の生きがいを見いだしたい。	3.8*	(1.0)	-.13	.04	.40
17	立身出世の競争は、結局みにくい利己主義のあらわれである。	3.4	(1.1)	-.17	-.08	.30
18	職業を通して、一生の間に大きな財産を築きあげたい。	3.5	(1.1)	.30	.41	.04
19	仕事と家庭生活を両立させることは、理想論ではあり得ても現実には極めて困難なことである。	2.6	(1.2)	-.03	.07	.04
20	仕事をすることは、人間の義務だから、働けるだけ働かなければならない。	2.9	(1.2)	.49	.06	-.10
21	勤務年数に応じて昇給・昇進が決まる年功序列制度を排除して、実力主義にもとづく人材登用がなされるべきだ。	3.1	(1.0)	-.06	.02	-.18
22	帰宅後まで仕事のことで悩まされるのは耐えられない。	3.8*	(1.1)	-.15	.01	.54
23	人生で一番尊いことは、一生を貫く仕事を持つことである。	3.3	(1.2)	.55	-.09	.02
24	職業を通して自分の能力や個性を発揮することよりも、幸福な家庭生活を築くことを優先させたい。	3.4	(1.0)	.14	.00	.37
25	終生ひとつの仕事に従事するよりも、いろいろな職業の仕事がしてみたい。	2.7	(1.1)	-.39	-.05	.10
26	仕事は仕事として割り切って、趣味やレジャーを楽しむような生活を送りたい。	4.0*	(0.9)	-.06	.09	.42
27	社会的な地位や名誉を得ることよりも、「金持になる」ことの方が自分にとっては重要だ。	2.6	(1.0)	-.07	.51	.02
28	収入のことは二の次にして、職業を通して社会に貢献できるような人生を送りたい。	2.7	(1.0)	.30	-.43	-.02
29	現代の競争社会においては、仲間を出し抜くことがあってもやむを得ない。	3.1	(1.1)	.00	.35	.01

表１（つづき）職業生活に対する考え方

		平均と標準偏差		因子負荷行列		
		M	SD	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
30	勤務時間外に、上役の顔色をうかがって、残業するのは愚かなことである。	3.5	(1.1)	-.16	-.19	.29
31	女性が外で働く場合は、家族に迷惑や不都合をかけない範囲にしておくべきである。	4.3*	(0.9)			
32	今日、社会的成功をおさめている人たちは、本人の能力と努力のたまものによるところが大きい。	3.7*	(1.1)	.38	-.14	-.10
33	仕事に打ち込み、仕事そのものの中で人生の生きがいを見いだしたい。	3.3	(1.1)	.43	-.12	-.21
34	必要以上に金銭を得ることは、その人間の墜落につながる。	2.8	(1.3)	.09	-.45	.15
35	世の中の正しくないことを押しのけて、「清く正しく生きる」ことこそ、自分が第１に守り通したい生活信条である。	3.1	(1.0)	.46	-.37	.07
36	仕事のために自分の個人的な生活を犠牲にするのは、愚かなことである。	3.5	(1.0)	-.03	-.03	.57
37	大学間には格差があるので、企業が採用にあたって指定校制をとるのはやむを得ない。	2.7	(1.2)	-.06	.19	.04

注）　＊は、M＞3.5 あるいはM＜2.5 のものを示す。
項目3,13,31は、因子分析の際には除外した。

関した30項目（表２参照），Part 3 では職務内容への志向性〔興味，自信など〕に関した53項目（表３参照）に対する賛否を，上記と同じ５件法により回答させた。

Ⅲ．結　果

５件法で得られた回答を，「非常にそう思う」から「決してそうは思わない」まで，順に５点～１点と得点化し，各項目における得点の平均値と標準偏差を算出した。また，各 part ごとに，項目間の積率相関行列を求め，これを主因子法により分析し，バリマックス回転した。

１．職業生活に対する考え方〔Part 1〕

表１に示した結果によれば，各項目に対する賛否には，回答者間でかなりのバラツキがあることがわかる。

しかし，項目31，項目14，項目26などに対しては肯定的回答が多いのに対し，項目５や項目４などに対しては否定的回答が多くなっている。これらのうち，項目26“仕事は仕事として割り切って，趣味やレジャーを楽しむような生活を送りたい”という考え方については，青少年を対象とした従来の他の調査においても肯定率が高くなる傾向があり，現代的に割り切ったドライな勤働観を反映したものとみることができる。項目11“金や名誉のことはあまり考えずに，自分の趣味に合った暮し方をしたい”，項目16“職業は生活の手段にすぎず，仕事以外に人生の生きがいを見いだしたい”，さらには項目22“帰宅後まで仕事のことで悩まされるのは耐えられない”といった考え方に対する肯定的回答が多いのも，これと同様な態度を反映したものであろう。

次に，因子分析結果についてみてみよう。ここでは，固有値の推移状況から判断して，上位３因子までを抽出した。各因子の相対的寄与率は，第Ⅰ因子が42.9%，第Ⅱ因子が31.9%，第Ⅲ因子が25.2%となった。

第Ⅰ因子に対して高い負荷を示しているのは，項目23“人生で一番尊いことは，一生を貫く仕事を持つことである”（.55），項目20“仕事をすることは人間の義務だから，働けるだけ働かなければならない”（.49），項目35“世の中の正しくないことを押しのけて，「清く正しく生きる」ことこそ，自分が第１に守り通したい生活信条である”（.46）などであり，これは，《伝統的・保守的生活観》を表わす因子と解釈できる。

第Ⅱ因子は，項目２“一生懸命に働いて金持になることが，人生の幸福への近道である”（.54），項目27“社会的な地位や名誉を得ることよりも，「金持になる」ことの方が自分にとっては重要だ”（.51），項目15“現代においては，世の中のことは結局すべてお金で動いている”（.45）などの負荷量が高く，《金銭重視の生活観》を表わしている。

さらに第Ⅲ因子は，項目36“仕事のために自分の個人的な生活を犠牲にするのは，愚かなことである”（.57），項目22“帰宅後まで仕事のことで悩まされるのは耐えられない”（.54），項目26“仕事は仕事として割り切って，趣味やレジャーを楽しむような生活を送りたい”（.42）などの負荷量が高いことから，《マイホーム主義的生活観》を表わす因子と解釈できる。なお，この因子は，内容的に先に指摘した現代的に割り切ったドライな勤働観

表2 希望する職業・職場の条件

		平均と標準偏差 M	SD	因子負荷行列 Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
1	たとえ仕事はきつくても、高い収入のかせげる職業につきたい。	2.8	(1.0)	-.23	.08	.51
2	働く時間が長く自由な時間が少なくても、仲間と楽しく働ける職場に就職したい。	3.8*	(0.9)	.44	.05	.12
3	先輩や知人とのつながりの強い職場へ就職したい。	3.2	(1.0)	.18	.22	.03
4	高い収入が得られなくても、雇用が安定し失業の怖れのない職業につきたい。	3.6*	(1.0)	.34	.51	-.17
5	できる限り地元の職場へ就職したい。	3.6*	(1.3)	.12	.26	.02
6	現在の規模は小さくても、将来、発展の可能性のある職場へ就職したい。	4.1*	(0.8)	.33	-.02	.27
7	人から尊敬されなくても、高い収入の得られる職業につきたい。	2.4*	(0.9)	-.35	.01	.16
8	経済的にはそれほど恵まれなくても、世の中のためにつくせる仕事をしたい。	2.7	(0.9)	.66	.06	-.02
9	多少収入は低くても、勤務時間が短く自由な時間が多い職業につきたい。	2.6	(0.9)	.04	.09	-.46
10	就職するのに、仕事の内容について好ききらいをいうのは、ぜいたくだ。	2.2*	(1.0)	.05	.27	.04
11	大企業で歯車の1つとして働くより、たとえ中小企業でも自分の能力や個性が発揮できるような職場へ就職したい。	4.1*	(0.9)	.32	-.37	.13
12	仲間と楽しく過ごせなくても、雇用が安定し失業の怖れのない職場へ就職したい。	2.4*	(0.9)	-.17	.41	.08
13	忙しくてゆっくり楽しむ時間がもてなくても、自分がそのことに打ち込めるような仕事につきたい。	3.7*	(0.9)	.36	-.11	.33
14	昇進や成功のチャンスが少なくても、仲間と楽しく過ごせる職場へ就職したい。	3.1	(0.9)	.31	.10	-.52
15	同性ばかりの職場よりも、異性の多い職場へ就職したい。	3.7*	(1.0)	.01	.18	.00
16	多少収入は低くても、暖かい人間味ある職場へ就職したい。	3.8*	(0.8)	.62	.09	-.24
17	労働時間が長くても、昇進や成功のチャンスの多い仕事につきたい。	3.2	(0.9)	.03	.15	-.61
18	自分の個性や能力が発揮できるかどうかより、収入の高さや安定性の方を重視したい。	2.7	(1.0)	-.39	.51	.08
19	収入は多少低くなっても、責任の少ない気楽な仕事がしたい。	2.3*	(0.9)	-.13	.30	-.47
20	同僚との競争が激しくても、自分の能力や適性が生かせるような職業につきたい。	3.5	(0.9)	.23	-.09	.45
21	たとえ仕事の内容は平凡でも、世間体（社会的評価）のよい職業につきたい。	3.0	(1.0)	-.06	.62	-.13
22	昇進や成功のチャンスが少なくても、雇用が安定し失業の怖れのない職業につきたい。	3.1	(0.9)	.13	.57	-.36
23	転勤のために引越をする必要の少ない職場に就職したい。	3.8*	(1.1)	.03	.23	-.09
24	多少収入は低くても、自分の能力や個性をフルに発揮できる職場へ就職したい。	3.6*	(0.9)	.68	-.23	-.12
25	たとえ大学での専門が生かせなくても、一流企業であれば就職したい。	2.7	(1.1)	-.31	.37	.10
26	仕事の内容は多少きつくても、社会に対して貢献できる職業につきたい。	3.0	(0.9)	.59	.06	.27
27	将来、発展しそうな会社よりは、現在、社会的評価の高い職場へ就職したい。	2.5	(0.9)	-.16	.43	-.05
28	昇進や成功のチャンスが少なくても、世の中のために役立つ仕事がしたい。	2.7	(0.9)	.65	.14	-.08
29	就職先の労働条件さえよければ、世間の評価など気にならない。	2.7	(0.9)	-.15	-.15	-.02
30	仕事内容は平凡でも、安定した失業の怖れのない職場へ就職したい。	3.3	(1.0)	.07	.73	-.16

注） *は、M>3.5 あるいはM<2.5 のものを示す。

と密接な対応関係にある。

2．希望する職業・職場の条件〔Part 2〕

表2に示された平均値によれば，まず，項目6“現在の規模は小さくても，将来，発展の可能性のある職場へ就職したい”や項目11“大企業で歯車の1つとして働くより，たとえ中小企業でも自分の能力や個性が発揮できるような職場へ就職したい”といった考え方を肯定する者の多いことが目につく。また，項目2や項目16の肯定率が高く，項目12で否定的回答が多いことから，職業選択に際して職場の人間関係をかなり重視していることが読み取れる。さらに，項目11，項目13，項目24などに対しても概して肯定的回答が多く，職業を通しての個性の発揮，自己実現欲求の強さが窺える。

因子分析の結果は，ここでも3つの因子が抽出され，相対的寄与率は，それぞれ41.1%，37.8%，21.1%となった。

第Ⅰ因子には，項目24“多少収入は低くても，自分の能力や個性をフルに発揮できる職場へ就職したい”（.68），項目8“経済的にはそれほど恵まれなくても，世の中のためにつくせる仕事をしたい”(.66),項目28“昇進や成功のチャンスが少なくても，世の中のために役立つ仕事がしたい”（.65），項目16“多少収入は低くても，暖かい人間味ある職場へ就職したい”（.62）などの負荷量が高い。したがって，この因子は，経済的な条件よりも，職業を通しての個性の発揮や社会的貢献あるいは暖かい人間関係を求める傾向を表わしており,《精神的に満足のいく職業・職場》を希望する因子と解釈しておく。

第Ⅱ因子に対して高い負荷を示しているのは，項目30“仕事内容は平凡でも，安定した失業の怖れのない職場へ就職したい”（.73）とか項目21“たとえ仕事の内容は平凡でも，世間体（社会的評価）のよい職業につきたい”（.62）などであり，これは《安定した社会的評価の高い職業・職場》を希望する因子である。

さらに第Ⅲ因子は，項目17“労働時間が長くても，昇進や成功のチャンスの多い仕事につきたい”（.61）や項目1“たとえ仕事はきつくても，高い収入のかせげる職業につきたい”（.51）の負荷が高く，項目14，項目19，項目9などがマイナスの負荷量になっていることから，《収入や成功・昇進のチャンスの多い職業・職場》を希望する因子と考えられる。

3．職務内容への志向性〔Part 3〕

ここでは，職務の内容に関した興味や自信の程度について尋ねた。

表3に示された平均値によれば，当然のことながら，概して工業技術職への志向性が高いことが読み取れる（項目14，項目24，項目48など）。また，自己を高めることのできる仕事への志向性も高い(項目3,項目34など)。

因子分析では，以下に述べるような5つの因子が抽出された。各因子の相対的寄与率は，順に36.6%，28.5%，15.8%，10.5%，8.7%となった。

第Ⅰ因子は，項目40“将来，何人かの部下を管理・統率していける自信がある”（.65），項目46“人を説得したり勧誘したりすることには，自信がある”（.65），項目9“努力さえすれば，一流の営業マンとしてやっていける自信がある”（.59），項目50“将来は，技術者としてよりも,会社の経営陣の一員として手腕を発揮していきたい”（.58）などの負荷が高く，《人を相手にする仕事への志向（営業・管理職志向)》の因子と解釈できる。

第Ⅱ因子には，項目38“たえず新しい知識や技術が要求される仕事でも，やっていける自信がある”（.68）や項目49“高度な専門知職に基づいて，たえず研究・開発を行なっていく仕事でも，やっていける自信がある”（.66）が高く負荷しており，項目14“工業技術者としての仕事は，自分には不向きである”や項目42“こみいった難しい仕事は，うまくやれる自信がない”の負荷量がマイナスになっていることから，これは《複雑で創意・工夫が求められる仕事への志向（技術職志向)》を表わす因子と考えられる。

第Ⅲ因子は，項目41“できれば公務員として技術関係の仕事をしていきたい”（.72），項目21“できれば，公務員になりたい”（.64），項目51“工業高校や中学校の教師は，自分にとって魅力ある職業の1つである”（.63）などの負荷量が高く，《公務員・教員志向》の因子と解釈できる。

第Ⅳ因子は，項目1“いわゆる現場の仕事よりも，事務所内でする仕事がしたい”（.61），項目12“体をつかう仕事よりも,頭をつかうことの多い仕事がしたい”(.56),項目15“美しいオフィスで仕事ができる職業につきたい”（.51）などの負荷量が高いことから,《事務的な仕事への志向（事務職志向)》の因子と解釈できよう。

最後に第Ⅴ因子に対して負荷量が高いのは,項目7“決められた仕事をするより，創意工夫が求められるような仕事がしたい”（.48），項目45“決まりきった内容を毎日くり返すような仕事は，自分には耐えられない”（.42），項目30“日々，内容が変化に富んだ仕事がしたい”（.40）などであり，これは《変化に富んだ仕事への志向》を表わす因子である。

4．全因子間の関連性

以上，Part 1とPart 2ではそれぞれ3因子，Part 3では5因子が抽出されたが，以下ではこれら11因子間の関連性について検討する。

このような目的のため，まず各対象者がこれら11因子

表 3 職務内容への志向性

		平均と標準偏差 M	SD	因子負荷行列 Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1	いわゆる現場の仕事よりも、事務所内でする仕事がしたい。	2.7	(1.1)	.13	-.06	.15	**.61**	-.03
2	デザインや設計関係の仕事につきたい。	3.2	(1.2)	.03	.36	-.02	.15	.21
3	仕事を通して自分の知識や能力を高めることのできる仕事がしたい。	4.2*	(0.7)	.02	.46	-.01	-.03	.25
4	たえず細かい注意力が要求される仕事は、自分には不向きである。	3.0	(1.0)	-.16	**-.42**	.10	.01	.18
5	かなりの体力が要求される仕事でも、やっていける自信がある。	2.9	(1.1)	.20	.20	.07	**-.44**	.03
6	できれば人を監督したり統率していくような仕事がしたい。	3.4	(1.0)	**.56**	.20	.09	-.08	.00
7	決められた仕事をするより、創意工夫が求められるような仕事がしたい。	3.8*	(0.9)	.15	**.52**	-.19	.01	**.48**
8	教育関係の仕事がしたい。	2.4*	(1.1)	.17	.05	**.53**	.04	.05
9	努力さえすれば、一流の営業マンとしてやっていける自信がある。	2.6	(1.1)	**.59**	.18	-.03	-.17	-.02
10	社会的地位や名声の得られる職業につきたい。	3.1	(1.0)	.29	.07	.23	.14	-.33
11	一人でやる仕事よりも、仲間と協同でやっていくような仕事がしたい。	3.6*	(0.8)	.04	.01	.21	-.07	.22
12	体をつかう仕事よりも、頭をつかうことの多い仕事がしたい。	3.4	(0.8)	.10	.25	.08	**.56**	.06
13	手先の器用さには、自信がある。	3.3	(1.1)	.12	**.48**	-.07	.01	.04
14	工業技術者としての仕事は、自分には不向きである。	2.4*	(0.9)	.16	**-.56**	-.04	.15	.04
15	美しいオフィスで仕事ができる職業につきたい。	3.0	(1.1)	.28	-.10	.12	**.51**	.07
16	たとえ苦労は多くても、権力が持てるような仕事がしたい。	2.8	(1.0)	**.53**	.14	.03	-.02	-.16
17	どちらかといえば、地味な仕事よりも派手な仕事がしたい。	2.7	(0.9)	**.41**	-.02	-.01	.12	.19
18	複雑な仕事よりも気楽にできる仕事につきたい。	3.0	(1.0)	-.06	**-.48**	.26	.15	.06
19	一生を技術者として貫き通すことが、自分の職業生活の理想である。	3.1	(1.1)	-.22	.38	.20	-.11	-.03
20	セールス・エンジニアーの仕事は、うまくやれる自信がない。	3.2	(0.9)	**-.42**	-.23	-.02	.13	-.05
21	できれば公務員になりたい。	3.1	(1.2)	.09	-.12	**.64**	.13	-.03
22	人と会ったり、話をしたりする機会が多い仕事につきたい。	2.9	(1.1)	**.53**	.03	.12	-.04	.33
23	収入が高ければ、多少危険がともなう仕事でもかまわない。	2.5	(1.0)	.10	.13	-.01	-.26	.00
24	できればメーカーにおいて、製品の研究・開発に携わる技術者としてやっていきたい。	3.7*	(1.0)	-.16	**.44**	.25	.11	.24
25	責任は重くても、自分の裁量にまかされているような仕事がしたい。	3.7*	(0.9)	.24	**.49**	-.04	-.07	.14
26	書類の作成、簡単な経理など、一般的事務処理能力には自信がある。	2.6	(1.0)	.24	-.03	.18	.25	-.09
27	人を説得したり勧誘したりすることに、興味がある。	2.3*	(1.1)	**.56**	.06	.14	.06	.04
28	できれば、コンピューター関係の仕事につきたい。	2.9	(1.1)	-.13	.25	.24	.14	.06

表 3（つづき） 職務内容への志向性

		平均と標準偏差 M	SD	因子負荷行列 Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
29	人間を相手にする仕事よりも、自然や機械などを相手にする仕事がしたい。	3.4	(1.0)	-.54	.19	.15	-.07	-.15
30	日々、内容が変化に富んだ仕事がしたい。	3.5	(1.0)	.02	.03	.07	-.06	.40
31	将来は独立して、自営業としてやっていきたい。	3.1	(1.2)	.30	.00	-.11	-.08	.13
32	ユーモアや社交性が必要な仕事は、自分には不向きである。	2.8	(1.2)	-.49	-.07	-.01	.08	-.39
33	機械の操作・修理などは、普通の人よりもうまくやれる自信がある。	3.3	(1.0)	.01	.51	.04	-.24	-.01
34	職業を通して自分の人間的な進歩・向上がはかれるような仕事をしたい。	4.0*	(0.8)	.07	.36	.04	-.04	.20
35	営業職や販売職でも、収入が高ければ就職したい。	2.3*	(1.0)	.45	-.26	.14	.00	-.01
36	研究者や学者のような仕事には、興味がない。	2.4*	(1.1)	.15	-.38	-.18	-.20	-.06
37	あまり動かない仕事よりも、動きまわることのできる仕事がしたい。	3.5	(0.9)	.15	.06	.06	-.51	.35
38	たえず新しい知識や技術が要求される仕事でも、やっていける自信がある。	3.3	(0.9)	.18	.68	.04	-.14	.07
39	高度な専門的知識よりも幅広い知識が要求されるような仕事につきたい。	3.3	(0.9)	.32	-.06	.09	-.01	.29
40	将来、何人かの部下を管理・統率していける自信がある。	3.2	(1.0)	.65	.29	.05	-.02	-.07
41	できれば公務員として技術関係の仕事をしていきたい。	3.3	(1.1)	-.05	.06	.72	.13	-.06
42	こみいった難しい仕事は、うまくやれる自信がない。	2.6	(0.9)	-.18	-.56	.06	-.02	.02
43	大学での専攻が生かせないような仕事には、つきたくない。	3.0	(1.2)	-.16	.34	.11	-.08	-.06
44	つねにアイデアや独創性が求められる仕事は、うまくやれる自信がない。	2.6	(1.0)	-.26	-.40	.16	.01	-.35
45	決まりきった内容を毎日くり返すような仕事は、自分には耐えられない。	3.5	(1.1)	.01	.19	-.08	.07	.42
46	人を説得したり勧誘したりすることには、自信がある。	2.3*	(1.0)	.65	.07	.08	.00	.00
47	綿密さを要する仕事よりスピードが求められる仕事の方が、自分に向いている。	2.3*	(0.9)	.20	-.02	.10	-.18	.07
48	どちらかといえば、「物をつくる」仕事よりも「物を売る」仕事がしたい。	2.0*	(0.8)	.48	-.41	.04	.03	.01
49	高度な専門知識に基づいて、たえず研究・開発を行なっていく仕事でも、やっていける自信がある。	3.2	(0.9)	.01	.66	.17	.05	-.01
50	将来は、技術者としてよりも、会社の経営陣の一員として手腕を発揮していきたい。	2.7	(1.1)	.58	-.12	-.05	.09	.03
51	工業高校や中学校の教師は、自分にとって魅力ある職業の1つである。	2.5	(1.3)	.14	.03	.63	-.09	-.01
52	日常的に文章を書くことが多い仕事は、うまくやれる自信がない。	3.4	(1.1)	-.32	-.05	-.05	-.13	.07
53	機械や器具を使って実際に物をつくる技能的な仕事をしていきたい。	3.4	(1.0)	-.30	.25	.20	-.24	.11

注）　*は、M＞3.5 あるいは、M＜2.5 のものを示す。

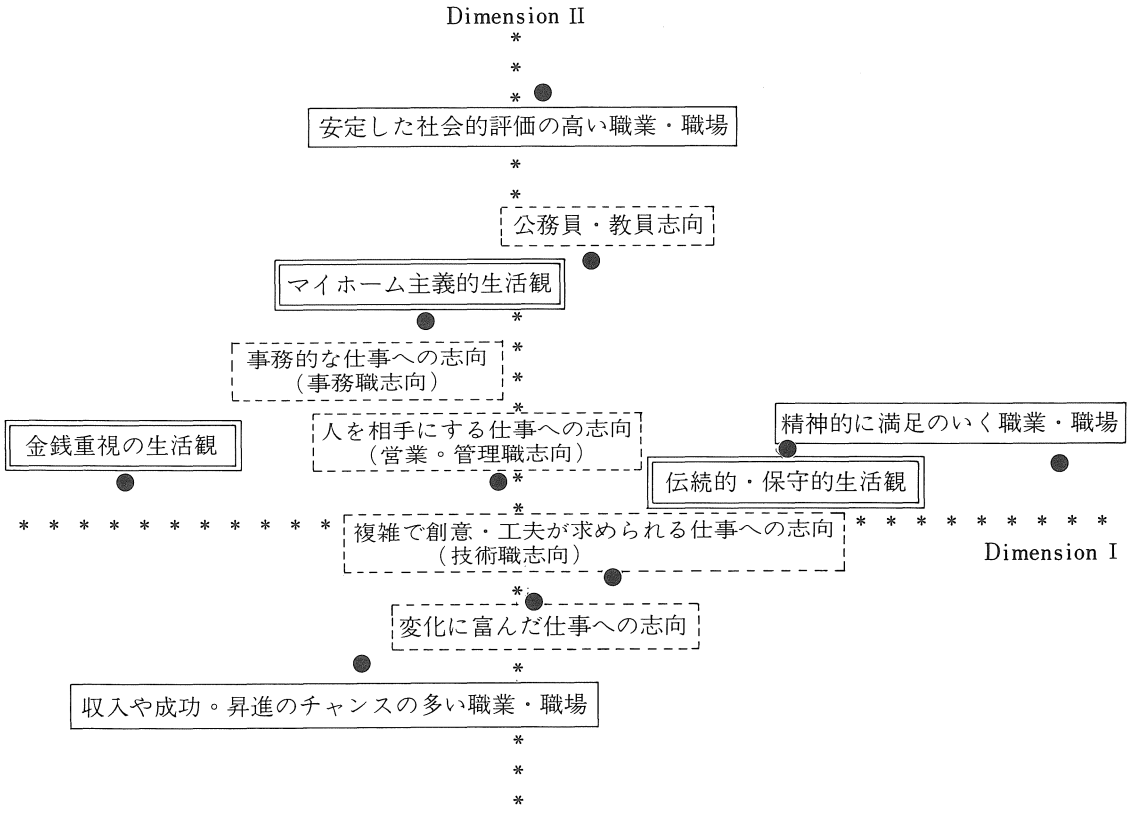
に対してもつ因子得点を算出した。そして，各因子得点間の積率相関係数を求めたものが，表 4 である。これによれば，Part 1 における第Ⅱ因子と Part 2 における第Ⅰ因子との間には，高い負の相関(r＝－.57)があることがわかる。すなわち，金銭重視の生活観を強く抱く者は，精神的に満足のいく職業・職場を希望する程度が相対的

表4． 全11因子間の相関行列

		Part 1			Part 2			Part 3				
		I	II	III	I	II	III	I	II	III	IV	V
Part 1	I 伝統的・保守的生活観				*							
	II 金銭重視の生活観	−.20			**							
	III マイホーム主義的生活観	−.20	.05			*						
Part 2	I 精神的な満足	.37	−.57	−.09								
	II 安定性と社会的評価	.13	.06	.31	.04					*		*
	III 収入や成功・昇進のチャンス	.23	.20	−.24	−.17	−.23		*				
Part 3	I 営業・管理職志向	.15	.08	.01	.02	−.04	.33					
	II 技術職志向	.13	−.08	−.12	.20	−.26	.28	.24				**
	III 公務員・教員志向	.14	−.04	.11	.13	.38	−.03	.10	.02			
	IV 事務職志向	−.06	.15	.15	−.20	.20	−.14	−.01	−.12	.10		
	V 変化に富んだ仕事志向	−.04	−.02	.00	.10	−.30	.11	.12	.46	−.07	−.05	

注）　** $|r| \geqq .40$,　　* $|r| \geqq .30$

図1． 全11因子間の関連構造



に弱い，また，Part 3 における第II因子と第V因子の間にも，かなり高い正の相関(r＝.46)がみられるが，これは因子の意味内容からして，納得のいく結果である。

次に，上記の相関行列をさらに因子分析することにより，今回収集した調査データの背後にある全体的構造を探ってみた。図1には，第I次元と第II次元から構成される平面上における各因子の位置関係が示されている。第I次元は，右極側に《精神的に満足のいく職業・職場》を希望する因子や《伝統的・保守的生活観》の因子が位置し，対極には《金銭重視の生活観》の因子がきている。したがって，これは「精神的豊かさの追求 vs 物質的豊かさの追求」の次元と考えられる。また第II次元では，上側に《安定した社会的評価の高い職業・職場》を希望する因子や《公務員・教員志向》の因子が位置し，対極には《収入や成功・昇進のチャンスの多い職業・職場》を希望する因子や《変化に富んだ仕事への志向》を表わす因子がきていることから，これは「安定志向 vs 変化志向」の次元を表わすものと考えられよう。

IV. 要　約

本稿では，工科系学生の職業観の構造について予備的な検討を加えた。

まず職業を中心にした生活一般に対する考え方や価値観を尋ねた Part 1 では，I.《伝統的・保守的生活観》，II.《金銭重視の生活観》，III.《マイホーム主義的生活観》といった3つの因子が抽出された。文部省統計数理研究所が5年おきに実施している日本人の国民性調査によれば，現代の青少年は，「金や名誉を考えずに自分の趣味に合った暮し方をすること」や「その日その日を，のんきにクヨクヨしないで暮すこと」を望む傾向が強い。本研究で抽出された第III因子に高く負荷する項目において，その肯定率が概して高くなっているのは，こうした傾向を反映したものとみることができよう。

それでは，彼らはどんな職業・職場を希望しているのであろうか。Part 2 では，I.《精神的に満足のいく職業・職場》，II.《安定した社会的評価の高い職業・職場》，III.《収入や成功・昇進のチャンスの多い職業・職場》といった3つの因子が抽出された。このうち第I因子の中には，職業を通しての個性・才能の発揮，職業を通しての社会的貢献，および職場の人間関係といった要因が含まれている。

さらに，職務内容への志向性を尋ねた Part 3 では，I.《人を相手にする仕事への志向（営業・管理職志向）》，II.《複雑で創意・工夫が求められる仕事への志向（技術職志向）》，III.《公務員・教員志向》，IV.《事務的な仕事への志向（事務職志向）》，V.《変化に富んだ仕事への志向》，の5因子が抽出された。

以上の結果に基づいて，今回収集した調査データの背後にある全体的構造を探るべく，全11因子間の関連性について検討を加えた。ここでは，「精神的豊かさの追求 vs 物質的豊かさの追求」ならびに「安定志向 vs 変化志向」の2つの次元が見いだされ，これらが職業観を分析する際の基本次元となり得る可能性が示唆された。

なお，本研究における対象者は，本学の学生に限定されている。したがって，ここで得られた結果をそのまま工科系学生の職業観として一般化できないことは，言うまでもない。より多くの大学で同種の調査を実施していくことは，今後に残された課題である。また，今後，本研究の結果をも踏まえて，工科系学生の職業指導に直接役立つような職業観診断検査を作成していきたいと考えている。

引　用　文　献

1）Super, D. E.: The work values inventory., Houghton Mifflin, 1969.
2）Rosenberg, M.: Occupations and values., Free Press, 1957.
3）増田幸一，広井　甫：職業観診断テスト，竹井機器工業ＫＫ，1965.

（受理　昭和59年1月17日）